
領域名：成人保健看護

報告者：永野 佳世

教育及び実践の課題

平成 26 年度より 4 年生の学生に対し、クリティカル・緩和ケア演習および実習を行っている。クリティカルケア看護は、重症患者に集中的にケアを行うことで病状の回復を促進させる、高度な知識、技術、判断力が求められ、基礎教育に基づいたより専門的な看護である。演習ではシミュレーション学習を取り入れ、臨床能力の向上を図っている。クリティカルケア看護教育において、看護学生の能力における自己及び客観的な技術の評価を、教育と実践へ反映させることが課題である。

活用した論文の概要

Riitta らは、卒業前の看護学生のクリティカルケア看護能力について、コンピテンンススケール ICCN-CS1 (Intensive and Critical Care Nursing Competence Scale, version 1) と基礎知識アセスメントツール BKAT7 (Basic Knowledge Assessment Tool version7) を用いて評価を行っている。その結果、ICCN-CS1 による学生の自己評価は高かったが、BKAT7 による基本的知識テストは低く、これは学生が基本的なクリティカルケアの能力を習得したと考えているが、現実はそのようではないことを示していると述べている。クリティカルケア看護の教育において、学生自身の自己評価と、教員や臨床指導者の客観的評価を組み合わせる必要があると述べている。

教育及び実践への活用

クリティカル技術演習では、各演習後に必要な能力に関する評価リストで自己評価を行い、自己の技術を振り返っている。その際不十分な項目に関しては評価「できる」になるまで練習を繰り返し、自己の技術の確認を行っている。また今回より、演習最終日に行われる技術試験の際、試験直後に教員からフィードバックを行い、学生が早期に振り返り妥当な自己評価が行えるようにしている。技術試験では、必須項目を設け、評価する教員によって合否やフィードバックに一定の基準が設けられるようにした。

今後は、クリティカル緩和ケア実習においても、技術の基準を現場の指導者と共有し、学生の自己評価及び能力の向上のための支援の検討が必要である。

参考文献

記載例：Wenzel J, Shaha M, Klimmek R, Krumm S (2011) : Working Through Grief and Loss: Oncology Nurses' Perspectives on Professional Bereavement, *Oncology Nursing Forum* 38(4), 272-282.
